

平成 30 年度第 1 回新潟市文化創造推進委員会 会議録

開催日時	平成 31 年 3 月 18 日（月）午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分
開催場所	新潟市役所 本館 3 階 対策室 2
出席者	<p>【委員】（50 音順） 太下義之委員、木村由美委員、迫一成委員、丹治嘉彦委員、村山和恵委員、山田周委員 出席 6 名 欠席 5 名（石田美紀委員、伊藤聡子委員、今井美穂委員、角地智史委員、能登剛史委員）</p> <p>【オブザーバー】 新潟県文化振興課長補佐</p> <p>【事務局】 文化スポーツ部長、文化政策課長、文化創造推進課長、文化政策課長補佐、アーツカウンシル新潟</p>
傍聴者	0 名
報道機関	0 社
会議内容	<p>1 開 会 （司 会） ただいまより平成 30 年度第 1 回新潟市文化創造推進委員会を開催いたします。委員の皆様におかれましては、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日、司会を務めさせていただきます文化政策課課長補佐をしております渡辺と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>本委員会は公開の会議とさせていただいております。会議録作成のため録音させていただくことをご了承ください。</p> <p>それでは資料の確認をさせていただきます。郵送で、次第、資料 1 から資料 7、参考資料 1、2 というものを配らせていただいております。そのほか、本日机上面にて「にいがた BUNKA WAON」のパンフレットと委員名簿と座席表をお配りさせていただいております。お手元に不足する資料等ございましたら挙手をお願いいたします。皆様、大丈夫でしょうか。</p> <p>それではお手元の次第に従いまして、「3 委員長、副委員長選出」まで事務局で進行させていただきます。本委員会の委員任期につきましては、昨年度末に前任期は満了し、今年度から新たに 2 年の任期となっております。よろしくお願いいたします。</p> <p>2 委員自己紹介 （司 会） 本日は、初めて本委員会に参加される委員もいらっしゃいますので、ご出席いただいている皆様から自己紹介をいただきたいと思っております。お手元の委</p>

員名簿の順に、ご自身の最近の活動などにも触れていただき、お1人一、二分程度でお願いしたいと思います。なお、本日は石田美紀委員、伊藤聡子委員、今井美穂委員、角地智史委員、能登剛史委員がご欠席ということでご連絡を頂いております。なお、木村委員については到着が遅れているようです。それでは太下委員からお願いしたいと思います。

(太下委員)

太下義之といいます。文化政策の研究をしています。新潟市の文化創造推進委員会は、前期も委員を務めさせていただきました。皆さんと一緒に今後も文化創造について議論できればと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

(迫委員)

お疲れさまです。私も前回からかかわらせてもらっています。この近くの上古町商店街というところで、ヒッコリースリートラベラーズという店舗だったり、新潟市美術館のミュージアムショップの経営などもやらせていただいています。

商店街の副理事長をやったり、新潟のデザイングループ、新潟ADCというものの運営の委員長などもさせていただいております。地域の中でデザインが活きるかだったり、商店街だったり、専門といいリンクが張れて、いいまちになるよう、いいアドバイスというかご協力できればと思っています。よろしくお願ひします。

(丹治委員)

新潟大学教育学部芸術環境講座の丹治といいます。前回からこの委員に任されて、様々な視点で提言並びに私もいろいろ学ばせてもらっているところがあります。地域の中で芸術というものを何らかの形で人と人をつなぐ重要なツールになるのだと私は考えています。皆さんと一緒にこの新潟で芸術という領域を通して豊かになれるような仕組みであったり、あるいは結果的に提言になるかもしれませんが、皆さんと一緒にこの会を推進できればいいかなと思っています。よろしくお願ひいたします。

(村山委員)

皆さんこんにちは。私も前期からこちらの委員を務めさせていただいております、新潟青陵大学短期大学部の村山と申します。

日ごろ、短期大学部のほうにおりまして、ほとんど本学部の学生は、卒業後96パーセントくらいが地元就職ということもありまして、地域のことを理解して、地域を語れる人間を育てられたらなという思いで、日々学校教育に携わっております。今回もまた、文化を通していろいろと人々が交流できるような新潟の実現ということで何らかの力になればと思っています。学校の活動とともに、新潟清酒の普及というような意味合いで、女性の日本酒コミュニティ「にいがた美醸(びじょう)」というものを主催しておりまして、こちらについても文化的な活動ということもありまして、何らかお役に立てるようなことが考えられたらなと思っています。よろしくお願ひいたしま

す。

(山田委員)

日本旅行業協会関東支部新潟県地区委員会で本年度委員長を務めております山田周と申します。昨年、新潟支店に着任しまして、それまでは長岡支店長をやっておりました。JTBの新潟支店で、昨年より勤務させていただいております。

先般2月6日に、中原市長と我々JATAのメンバーとで意見交換をさせていただきまして、主に観光交流を通しての新潟市への交流人口増加といった形のテーマで意見交換をさせていただきました。本日、文化創造という目的で、いかに交流人口増加に寄与できるかどうか、皆様と一緒に勉強させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(オブザーバー)

県の文化振興課の柴田と申します。私もちょうど3年くらい前からオブザーバーとしてこの会に参加させてもらっています。

最近の文化関係の動きといいますと、今年の秋、県内で国民文化祭があるということで、準備を進めているところです。私が最初、文化振興課に来たときには、10人の課だったのですが、今は25人の課になり、4月からはさらに4人増えて29人ということで、もともとの人員から3倍近い体制で準備を進めているところです。

特に、新潟市は県庁所在地でもありますし、人口も多いということで、いろいろなイベントなどお願いしているところですので、私ごとで恐縮なのですが、この3月で別な部署に異動になってしまい、最後を見届けることができなくなってしまったのですが、皆様のご協力を得ながら、成功に向けて頑張っていければと思っていますので、よろしくお願い致します。

(司 会)

ありがとうございました。なお、新潟県の文化振興課の柴田補佐には本委員会のオブザーバーとして参加していただいております。また、本日、アーツカウンシル新潟から杉浦幹男プログラムディレクターにご出席いただいておりますので、自己紹介をお願いいたします。

(アーツカウンシル新潟)

アーツカウンシル新潟のプログラムディレクターを務めております杉浦でございます。

アーツカウンシル新潟は、前回の会議でご説明申し上げたかと思いますが、平成28年9月に立ち上がって、今度で早や4年度目になってまいります。

市内の芸術文化団体の支援を通じて、市の文化振興、それから市内の芸術文化の基盤や仕組みなどを整備していければということで、日々活動しております。よろしくお願い致します。

(司 会)

ありがとうございました。続きまして事務局をご紹介させていただきます。文化スポーツ部長の中野です。

(文化スポーツ部長)

中野です。よろしくお願いいたします。

(司 会)

文化政策課長の塚原です。

(文化政策課長)

よろしくお願いいたします。

(司 会)

文化創造推進課長の高野です。

(文化創造推進課長)

よろしくお願いいたします。

3 委員長、副委員長選出

(司 会)

次に、次第「3 委員長、副委員長選出」についてです。

参考資料1「新潟市文化創造推進委員会開催要綱」第6条2項に、「委員長及び副委員長は、委員の互選によってこれを定める」とあります。選出に当たって、委員の皆様からご意見等ございますでしょうか。

事務局の案としまして、前任期で委員長を務めていただいた太下委員に委員長を、同じく副委員長を務めていただいた丹治委員に副委員長をお願いしたいと考えておりますが、委員の皆様いかがでしょうか。

(異議なしの声)

それでは、委員長を太下委員、副委員長を丹治委員とさせていただきます。太下委員長は席の移動をお願いいたします。

ここからの進行につきましては、太下委員長をお願いしたいと思います。太下委員長よろしくお願いいたします。

4 意見交換

(1) 新潟市文化創造交流都市ビジョンの成果検証について

(資料1、資料2、資料3、資料4、資料5、参考資料2)

(太下委員長)

それでは、委員長といたしますか、議事進行を承りました太下です。

次第「4 意見交換」からいきますけれども、最初に「(1) 新潟市文化創造都市ビジョンの成果検証について」ということで、今日はだいぶ資料が多いですけれども、最初に資料のご説明をお願いします。

(事務局)

お手元にお配りしてございます資料ですけれども、まず資料1が、平成29年度のビジョンの実施状況の資料でございます。資料2は、平成29年度に関連事業一覧表という資料でございます。資料3は、成果指標(案)について

でございます。資料4は、成果指標（目標）及びモデル事業（案）という資料でございます。続きまして、資料5が、平成30年度のビジョンの関連事業一覧表でございます。資料6が、アーツカウンシル新潟の事業報告書、資料7が、アーツカウンシル新潟の成果検証についてという資料でございます。

参考資料といたしまして、当文化創造推進委員会の開催要綱が参考資料1、ビジョンの概要版をカラーコピーした資料が参考資料2、そして前回の会議録をお配りしてございます。資料の過不足等はございませんでしょうか。

引き続き説明に入らせていただきます。

本日は、ご覧いただきましたとおり、資料が大変多くございますけれども、ビジョンの実施状況、それから成果を測るうえでの指標等のご議論ということで、参考資料2として、迫さんのところからデザインをいただきましたビジョンの概要版の見開きの部分を机の片隅に開いて置いておきながら、比較対照して活用いただきたいと思っております。

それでは、資料1をご覧いただきたいと思っております。ビジョンの実施状況（平成29年度）でございます。これは平成29年度に実施されました本ビジョンに関連する事業の実施状況についてまとめたものでございます。上の表の全体に記載のありますとおり、全庁的な関連事業の総数は、再掲分も含めまして延べ247事業ございました。そのうち238事業、全体の96パーセントが予定どおり実施されております。なお、一部実施に区分されております九つの事業ですけれども、実施はしているのですが、来館者数が目標人数に達しなかったなど、独自に設定いたしました目標値を達成できなかったということで、各課において厳しく自己評価した結果、一部実施と区分をされているものでございます。

部局ごとの事業数につきましては、下の表に記載のとおりでございます。真ん中ほどの計の欄をご覧いただきますと、当然、文化スポーツ部が95事業ということで一番多くなっておりますけれども、そのほか観光ボランティアガイドの養成ですとか、芸妓文化の振興など、本市の文化を活用して交流人口の拡大を図る事業を実施している観光・国際交流部や、ガストロノミーツーリズムなど、食文化の事業を実施しております農林水産部が多くなっております。

また、各区においては、事業数に関しましては、調査が初年度ということもあり、事業数にばらつきがございますけれども、来年度以降は、より正確な状況が把握できるよう努めてまいります。教育委員会につきましては、公民館などでの生涯学習系の事業数が多くなっております。

どの部局でどのような具体的な事業を実施したかなどにつきましては、先ほどご覧いただきました資料2が施策の方向性ごとの詳細な事業の内訳になっておりますので、後ほど、ご確認いただければと思っております。

次に資料1の2ページをお開きいただきたいと思っております。こちらから最終ページが11ページになりますけれども、ビジョンの基本方針が1から3までございますが、それぞれにぶら下がります施策の方向性ごとに、関連事業の

実施状況をまとめております。また、表の下のほうには、関係する部局と事業数及び主な取組みについてまとめてございます。こちらも詳細は後ほど、ご確認いただければと思います。資料2を分かりやすく基本方針ごとにとりまとめてある資料になっております。

次にビジョンの評価、成果検証についてご説明をさせていただきます。本ビジョンの推進に当たりましては、今ほどご説明いたしました関連事業の実施状況の把握、これに加えて、ビジョンの成果検証に取り組んでまいります。資料3をご覧いただきたいと思います。成果指標（案）についてという表題になっております。こちらにつきましては、本ビジョンに基づく施策の成果を短期的、中期的、長期的な視点でとらえまして、個人に及ぼす変化だけではなく、周囲の人々、ひいては地域、社会に及ぼす変化を測っていくための指標であり、前回の推進委員会で委員の皆様から頂きました意見を踏まえ、アーツカウンシル新潟より指導いただきながら、最終的に10のカテゴリーと視点、21の指標項目にまとめた表でございます。

一番左、カテゴリーでございますけれども、①として鑑賞行動から始まりまして、鑑賞行動というのは、「市民自体の参加（享受）」でございますけれども、市民がいろいろな文化に触れる機会をどれだけ提供できているか、どれだけ参加しているかという視点でございます。②の市民活動につきましては、参加するだけではなく、主体的にかかわる、興していく市民団体活動というのがどれだけ活性化しているか。③の市民アイデンティティについては、市民の故郷に対する愛着や誇り、シビックプライドがどれだけ醸成されてきているか。④のブランディングにつきましては、外部から見た新潟市の都市格、ブランド力がどれだけ高まってきているか。⑤の交流人口については、観光客の集客にどれだけ寄与しているか。⑥の経済・雇用につきましては、創造産業、創造企業の育成にどれだけ貢献しているか。⑦協働（CSR）と書いてありますけれども、多様な主体の参加がどれだけ実現できているか。⑧の多様性・寛容性については、障がい者・高齢者・外国人など、様々なバリアを取り除いた多様性・寛容性というのがどれだけ醸成されているか。⑨の教育につきましては、子どもや親御さんの参加、活動への参加にどれだけ貢献しているか。⑩につきましては、文化創造交流都市の推進ということで、社会や地域の課題解決にどれだけ文化事業が役立っているかという視点でそれぞれの項目、カテゴリーに対して指標というものを定めて、それぞれ項目の右側に基準値というのがございますけれども、これはビジョンが策定する前の年度の数値でございますが、この数値がどれだけ向上していくかということを見ていこうというものでございます。

前回の委員会では九つのカテゴリーに分かれておりましたけれども、⑩の文化創造交流都市の推進の項目につきましては、前回の委員会でのご意見を踏まえまして追加をさせていただいたものでございます。

なお、成果指標につきましては、定量的な指標だけではなく、定性的な指標も設定し、総合的に成果を検証していくことを検討してまいりました。前

回の資料においても、このカテゴリーに分かれている右側に、定性的な項目というのを行として設けておりましたが、具体的な指標の把握方法や検証方法の検討をしましてまいりました結果、成果指標については定量的な指標のみを設定することといたしまして、定性的な評価に関しましては、後ほどご説明をいたしますが、成果を出して行くための牽引役として設定いたします「モデル事業」のほうで進捗管理をしていくこととしたいと考えています。

それでは、資料の4をご覧くださいと思います。「成果指標（目標）及びモデル事業（案）」という表題でございます。先ほどの資料3で設定いたしました成果指標は、長期的な視点で社会に及ぼす変化を測っていくための指標であり、本ビジョンの計画期間であります5年間では数値の変化が現れにくいものとなっております。そこで、本ビジョンの計画期間内の当面の成果検証の作業といたしまして、資料4の一番左側、成果指標に対する具体的な目標といたしまして、ビジョンの施策の方向性。これはお手元の見開きのカラー刷りのビジョンの概要版の●の項目でございます。いわゆるこれが、戦略でございます。戦略を①から⑩の全てのカテゴリーにひも付けをいたしました。さらにそれを実現するための戦術となりますモデル事業、これが資料の一番右の欄に書いてございますけれども、これを平成30年度のビジョンの関連事業一覧、それは資料5になります。資料5の様々な事業の中から目標を実現するための代表的な戦術として、各カテゴリーに対して三つくらいずつ選んであるというものでございます。

来年度から毎年度、アーツカウンシル新潟がこれらモデル事業一つ一つに対しまして、定量的な数値の把握に加えまして、事業担当者や関係者などへのヒアリングを行います。成果につながる事業内容になっているかを検証いたしますして、フィードバックしていくことで長期的な成果指標の向上につなげていきたいと思っております。

具体的に見ていきますと、①の鑑賞行動、「市民自体の参加（享受）」という成果指標と、それを測ります「文化芸術活動に初めて参加する人の割合（文化施設への来館機会）」と「多様な文化芸術活動への参加（生活時間の多様化）」の二つの指標項目に対する具体的な目標を、ビジョンの施策の方向性の●から選びまして、重点目標を基本方針、ビジョンの一番上の赤い字で書いてある基本方針1の（2）に、「文化創造拠点の活性化」という項目がございます。そのうちの●の一つ目に「新潟市民芸術文化会館（りゅーとびあ）や新潟市美術館といった専門性の高い施設では、市民の文化芸術活動を支援するとともに、質の高い舞台芸術や展覧会の開催などにより、先進的な文化創造を国内外に発信します。」、これを重点的に取り組む項目と設定してございます。その重点目標の戦術となる事業であり、長期的な視点で指標項目を向上させる事業といたしまして、まずは「りゅーとびあ鑑賞事業」。次の行に「美術館協力会との協働」。次に「歴史博物館企画展等実施事業」、この三つの事業をモデル事業として選定してございます。

以下、項目が多いので抜粋してご説明させていただきますが、1枚おめく

りいただきまして、中ほどに⑤、交流人口がございます。成果に対する具体的な目標のうち、重点目標を、こちらビジョンの基本方針2の「(1)新潟市らしい文化を国内外へ発信」のうち、一つ目の●の「交流人口拡大につながる潜在性が高く、新潟市らしさを際立たせる『みなとまち文化』、『食文化』、『マンガ・アニメ』を中心に戦略的なプロモーションを国内外に展開します。」といたしました。その戦術といたしまして、一番右側に書いてございます、「マンガ・アニメを活用したまちづくり」、次に「新津鉄道資料館の魅力創造事業」、次に「観光ボランティアガイド養成」、「芸妓の舞鑑賞費助成事業補助金」の四つをモデル事業として選定してございます。

モデル事業につきましては、新潟市らしき際立たせる文化のコンテンツとして、「マンガ・アニメを活用したまちづくり」や「新津鉄道資料館の魅力創造事業」といいましたコンテンツ自体の活用を進めていく事業と、「観光ボランティアガイド養成」や「芸妓の舞鑑賞費助成事業補助金」など、文化に触れる機会や環境の整備を進める事業を選定してございます。

次に⑥の経済・雇用、「創造企業の育成」ですけれども、文化芸術の創造性を活用した産業、つまり創造産業が創出されることは、本市経済の発展に寄与していくことにつながってまいります。そのためにはクリエイティブな人材が集まりやすい環境の整備が必要となることから、重点目標を基本方針1の「(3)子どもや若者、アーティスト・クリエイターの育成、支援」のうち、三つ目の「●アーティストやクリエイターの滞在を伴う活動拠点や発表機会を創出し、その活動を支援することで、創造性に富んだ人材が集まりやすい環境づくりを進めます。」といたしまして、三つのモデル事業を選定してございます。

「芸術創造村・国際青少年センター事業」は、滞在型の創造活動を行う芸術家等を国内外から募集、支援することで、創造性に富んだ人材が集まりやすい環境づくりを進めることを目的としております。また、「にいがたマンガ大賞の開催」は、マンガ大賞を通じまして「マンガ・アニメのまち」をアピールし、マンガ文化の拠点都市となることを目的としております。どちらの事業も人材が集まってくる環境を目指しているので、モデル事業として選定をいたしました。また、「伝統的工芸品展示会開催事業」は、経済や産業に直接関係ある事業ということでモデル事業としております。

次に1枚またおめくりいただきます。一番上の⑦協働(CSR)、「多様な主体の参加(支援環境)」でございます。まずは多様な主体の参加自体を広げていく必要があることから、重点目標を基本方針1の(1)のうち四つ目の「●市民、NPO、企業、大学など多様な主体が行う文化芸術活動への支援を強化していきます。」といたしまして、モデル事業を地域課題解決に向けて市民団体が行います様々な活動に支援を行う、「地域活動補助金」といたしました。このカテゴリーに関しては、企業との連携も本市の大きな課題であると思っておりますので、委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。

また、委員の皆様にはご意見を頂きたいポイントについて事前をお願いをさせていただきましたが、各成果指標に対します「モデル事業」について、事務局案のほかに掲載したほうがよい事業または新規でこのような事業があるとよいなど、忌憚のないご意見を頂きたいと考えております。

事務局からの説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

(太下委員長)

ご説明ありがとうございました。だいぶ資料が多いので、大丈夫ですか、皆さん。一応、今、資料1から4までご説明いただいた形です。もう一回振り返りをしますと、資料1というのは、自己評価の資料です。資料2、3、4が相互に関連する資料になっているわけですが、資料4というものがある意味、集中的に議論すべきペーパーという形になっています。資料4をご覧いただくと、左から縦軸の列で「成果指標」、「カテゴリー」、「視点」、「指標項目」、「目標」そして「モデル事業及び事業概要」となっていますけれども、左側の「成果指標」、「カテゴリー」、「視点」、それから「指標項目」というのは、資料3からきているわけです。真ん中の「目標」というのは、参考資料2のビジョンを持ってきていると。一番右の「モデル事業及び事業概要」というのは資料2ですか。資料5は、今年度分になるのだと思いますけれども、資料2から持っている形になるのでしょうか。そういう構成になっているかと思えます。

というわけで、基本的に資料4を中心に議論いただければいいのかと思うのですが、今までのご説明で何か質問等ございますでしょうか。ここがよく分からなかったとか、ここはどうなっているのでしょうかとか。

事前に皆さんに宿題が出ていたんですか。では、優秀な生徒の皆さんは多分宿題をこなしてきているという前提で。どうしましょう、ぐるっとお話を伺っていく形でしょうか。最初は村山委員からこういう感じでお話を伺ってまいりたいと思います。

(村山委員)

優秀な生徒ではないかもしれないので、宿題が完璧だったかと言われると若干自分でも疑問を持たざるを得ないところがあるのですけれども。

今、資料の4を少し拝見しているところなのですが、10のカテゴリーということで、そのカテゴリーごとに指標項目が設けられてということで拝見しているのですけれども。ざっと見て、昨年度の会議等でもかなり揉んで決まったことですので、まとまり感や整合性というのはあるかと思うのですけれども、細かいところで、私の理解不足かもしれないのですが、資料4の⑤交流人口というカテゴリーがございしますが、こちらの目標で、新潟市らしさを際立たせる「みなとまち文化」、「食文化」、「マンガ・アニメ」というような文言がございまして、そちらを踏まえてのモデル事業が、例えば「マンガ・アニメを活用したまちづくり」ということや、「新津鉄道資料館の魅力創造事業」と。上の二つがコンテンツ自体の充実ということで先ほど説明を頂いたものかと思うのですけれども、例えば新津鉄道資料館もかなり鉄

道好き、いわゆる鉄ちゃんといわれるような層の方がよく訪れる施設ではないかと思うのですけれども、なかなか広く一般の方が訪れたいかと思うと、おそらくちょっと、どちらかというとなマニアといいますか、そういったヘビーユーザーの人向けなのかなと思うのです。こういった部分の例えば、マンガ・アニメもそうかもしれないのですけれども、そのあたりをどのように認知をしていただくかとか、情報発信とか、どのあたりまでの人を対象にしているのかとか、そういった部分が少し分からなかったなと思いましたので、このあたりをお聞かせいただけたら助かります。

(事務局)

主に対象としては、鉄道もマンガ・アニメも、元のカテゴリーが交流人口ということなので、インバウンドを意識した選び方になっています。鉄道も海外の方にはけっこう訴求力があるということもお聞きしておりますし、マンガ・アニメについてもクールジャパンということで注目を浴びているということですので、それぞれまだ、打ち出し方が弱いという部分がありますので、そこを意識して取り組んでいくべきではないかということで選んでおります。

(太下委員長)

よろしいですか。そうしましたら次、山田委員お願いします。

(山田委員)

すみません、私もちょっと事前のコメントの項目が⑤の交流人口というところで頂いてはいるのですが、少しかぶるかもしれませんが。そもそも指標項目、KPIとしては資料3の基準値というので具体的な数字が、平成28年度の数字だと思うのですけれども、これの何パーセント増えれば目標達成とか、そういった具体的な目標指数を設けているのかという点と、「マンガ・アニメを活用したまちづくり」、それから「新津鉄道資料館の魅力創造」という形でありますけれども、それに対して外国人宿泊者数というものの整合性が、連携性がよく分からないです。例えば、日帰りで来る外国人も当然いるでしょうし、その辺の連携というか、整合性がよく分からないというのが2点目です。

このマンガ・アニメと新津鉄道資料館だけでコンテンツとして、材料としていいのかどうかという点もあります。あわせて外国人の対象も、アジア、欧米などいろいろあると思いますので、その辺の細分化。さらにせつかく訪れたのに詳しい説明文とかが、外国人に対していわゆるサインです。その辺の外国人受入体制として整っているのか。結局、行って見たけれども、どういう内容だったかいまよく分からなかったとなると、大事なリピーターに結びつかないのではないかとといったところも懸念材料としてあると思っております。

(太下委員長)

何か事務局のほうから。

(事務局)

まず、具体的なK P I、目標値ということですがけれども、これについてはまだそこまで議論が進んでないという状況でございます、どの国をターゲットにすればいいのかですとか、新潟市に訪れている外国人観光客の行動の傾向ですとか、そういったものがまだつかみ切れていない状況でございます。その辺、もしこういった傾向にあるですとか、こういう数値というものが経年で把握できるのではないのでしょうかとか、そういった提供がございましたらぜひ、ご意見いただければと思っておりますし、リピーターの獲得に向けた多言語対応ですとか、サインピクトグラムですとか、決済環境につきましても、今、我々もそれが各施設はじめ課題であるとは思っておりますので、それをリピーター、満足度を上げていくために、各施設でどのように対応していくべきかということを取り組んでいくという意味も含めて事業を選定したいという状況です。

(太下委員長)

よろしいでしょうか。続きまして木村委員お願いいたします。

(木村委員)

すみません、遅れてきました。申し訳なかったです。

私、初めて今年参加するのですけれども、私の部分がカテゴリー⑦だったと思うのですけれども、いろいろ目を通したのですけれども、なかなか全般的に、私は理解できないところがありまして、もう少し具体的に勉強して質問をしたいと思っておりますので、今日はどのようなやり方でやるのかを拝見させていただきたいと思っておりますので、以上です。すみません。

(太下委員長)

分かりました。では、次に迫委員お願いします。

(迫委員)

私は、⑥の経済・雇用と教育というところを割り振られていたので、私でいいのかと思いつつも言います。難しいですね、いっぱい書いてあって。入りに組んでいるので、理解しにくいなのというのが正直なところでした。ただ、率直に申し上げます。先ほどの基準値のところは、私も非常に気になっていて、平成28年度の状況がこれだというのは分かるのですが、これをどうしたいのかというところが見えないと分かりにくいなど。深く掘り下げれてないなということを感じたので、結果が出たということも堂々と言いくくなるのかなと思ったので、もうちょっと絞ってもいいのかなという気がしました。

⑥の指標項目の分かれている「創造産業関連企業の雇用者数」を増やすというのが目標で入っているのですけれども、アーティストの方に来ていただいて滞在していただいても、そこにはつながらないのではないのかというか、「モデル事業及び事業概要」で挙げられているところが、果たして本当にこれを上げようとしているのかというような感じが、難しいかなという気がしましたので、どう考えられているのかと聞きたいのと。水土を前やったところでやられている国際青少年センター事業、子どもたちは非常に楽しんでい

たりするようなのでいいと思うのですけれども、愛着作りとかにはなっていますが、それが次につなげられそうなのかということが気になるなと思いました。

「伝統的工芸品展示会開催事業」というのがあるのですが、これはよくやるやつではあるのですけども、その後がないのかなと。ここもう一步踏み込んだほうがいいのかと思って、やるのであればアーティストの方、クリエイターの方とくっつけた商品開発だったり、それを活用したPRとかまで持っていけないと、成果は出ないですし、よくあるやつになって終わるというか、この課でする必要がないレベルのことだと思いました。

⑨の教育のところ、子どもの豊かな感性や想像力を育むための優れた文化芸術に触れる機会とあるのですけれども、この優れた文化芸術が何を指すのかと思ひまして、どこからが優れているのかと思ひました。ただ、優れた文化芸術として新潟市が誇れるものとして明らかなのはNoismかなと思うので、Noismを子どもに見せたらいいのではないかというか、全小学生、全中学生に見せるというか、ほかの地域にはないような何かになって、カテゴリーをまたいでくっつけられるので、有意義かなと思ひました。

いろいろありますけれども、その辺が気になった点というか、提案も含めてです。

(太下委員長)

今の迫委員のご意見について、何か事務局でございませうでしょうか。確かに改めて見てみると、カテゴリーの⑥経済・雇用というものに対してのモデル事業が、あまりどんぴしゃりではない感じはします。もっと頑張るまちなかとか、そちらのほうがもう少し経済っぽいというか、近い感じがしなくもない。

(事務局)

我々でも、経済・雇用に文化でどう貢献していくかというのが、一番難しいと感じているところで、クリエイティブな方々を集める機会というのは、芸術創造村、いわゆるゆいぽーとがオープンして、そこにレジデンスをする作家さんが外部から年に2回はやってくるという環境はできているのですけれども、そこと地元の産業とどうマッチングさせるかというところが大きな課題であると思ひているので、一步も二歩も踏み込んだ市内の連携というのを深めつつ、民間同士のマッチングというものをしていく必要があるのかなと感じております。

入り口として、まずはそういう外からの創造性、クリエイティブな人材を集めるということを着実にやっいていこうということで、芸術創造村の事業を挙げてあるということです。

にいがたマンガ大賞についても、おかげさまで21年間続けてきて、具体的にプロデビューを果たす人もいたり、それを目指すべき新潟の子どもたちに中央の大手の出版編集部から来てもらいながら、添削会をしたりとかいうことで、クリエイターを輩出していこう。それからマンガやアニメを制作する

会社自体に人材を輩出していく、そういう多くの人材を輩出する土地だということで、そういう会社が集まってくるという状況にまでつなげられればと考えて、マンガ大賞の開催について挙げてあるという状況です。

まだまだ道半ばという感じですがけれども、モデル事業に選んであるというのは、将来にわたってなくしてはいけない事業というものを中心に選出しているということでございます。

教育の部分について、優れた文化芸術ということでNoismもそうですし、残念ながらこれはなくなってしまうかもしれませんが、踊り文化推進事業というものを平成29年度まではやっておりまして、中学校にアウトリーチでNoismの公演を体育館で再現するというのもやっていたのですがけれども、事業が終わってしまいましたので、それがここには載せられていないということと、市としては施策の後退につながる事案なのですがけれども、教育委員会として本物のオーケストラ音楽をりゅーとびあのコンサートホールに小学校5年生を全員集めて、オーケストラを体験していただくという事業も教育委員会のほうで今年度廃止をしたので、私どものほうで代わって、希望する5年生を対象に低廉な価格で見に来る機会を創出する事業を始めましたので、こういったものもこのメニューには載っておりませんが、文化芸術を使って子供たちの創造性を育む取組みについては、力を入れてやっていきたいと思っています。

すみません、答えになっているかどうかあれですけど。

(太下委員長)

追加があれば。

(迫委員)

Noismが訪問をされていていいなと思っていたのですが、行くと大変だと思うので、来てもらうというか、せっかくりゅーとびあでやっているの、空きがある日もあるでしょうし、それは割とすぐにでもというか、何かアルビの観戦無料が小学生とかであるようにやれると非常に。全員呼ばなくても、興味がある方は行けるみたいなというのは、非常にやりやすいことかと思いました。

国際青少年センターなのですがけれども、中に新潟市の下、これもくつつける感じになるのですが、三つ目の伝統的工芸品展示会開催事業を開催するのも大事なのですが、青少年センターの中に資料館とか資料部屋でも1個作って、新潟市にはこんな産業という文化があるよというものを作れば、滞在するアーティストもそれに興味を持って、それ以降展開される可能性はあると思うのですが、アーティストを呼んで、それぞれまた対応して、市内のおもしろいところへ連れて行って、そこからアートを考えてくださいということがほとんどだと思うので、資料室を作ってしまうと観光というか、そういうものに興味ある方も立ち寄ってくださいますし、おもしろいのかなというような気がしますので、もし検討いただければいいです。

国際青少年センター自体が芸術創造村という名前もついていますので、こ

こをもう少し活用というか、もっと使ってください、使えますよというPRを積極的にしたほうがいいなと思います。外の方を呼ぶということよりも、中の整理も平行してやらないと、結局また一からやり直したいなことが多いのかなという気がしますので、やっていけばいいなと思います。

マンガ大賞関係で今後、産業になったらいいなというか、おっしゃっていて、そういう企業などの優遇みたいなものがあったりするのですか。

(事務局)

そこまでないです。

(迫委員)

ないですよ。そこと連動させてこそそういう気持ちがあるのかなという気がするのですが、それがなく、ただこういうものをやっただけだと、効果は非常にあるとは思いますが、経済・雇用に入れるのであれば、もう一步、優遇だったりメリットがないとそんなにでもないかと思いました。

なくしてはいけないような新潟の誇れる部分を残していくという意味合いも含まれているとおっしゃっていたのですが、それはここに入れないでほかのところに入れたほうがいいかなとか。発言としては、ここではなくて、③市民アイデンティティにそういうのは含ませたほうがいいのかという気がしました。

(太下委員長)

ありがとうございました。

(丹治委員)

私のほうからは、②とそれから⑩に宿題が出ていたので、市民活動と文化創造交流都市の推進という項目に関していくつか見させていただきながら、それぞれこの点はどうなのかなという疑問点とさせていただければと思います。

私の意見なのですが、市民活動のところで目標の「1-(1)子どもや高齢者、障がい者などすべての市民が、気軽に文化芸術を鑑賞・創作・体験・発表できる機会を充実します。」、この文言なのですが、できれば子どもや高齢者、障がい者などすべての市民が「分け隔てなく」と一文を入れていただければ、もっと、高齢者もそうですし、障がいのあるなしにかかわらず、みんなが文化に親しめるんだよというメッセージになるかなと思いました。

いくつかあるのですが、まず膨大な資料で、1時間、2時間目を通しながら、逆にこれを作るのは大変だったろうかと、資料をエクセルか何かでまとめた作業、一文一文チェックしながらまとめられたというのは大変な作業だったなと思っています。そうなのですが、例えば市民活動の中で「モデル事業及び事業概要」等を見ていくと、これをまた、資料5の関連事業一覧、ここからピックアップしながら関連づけながら見ていくと、それぞれ実施された部局との関連性みたいなのが書いてあるのですが、結論からというか、文化スポーツ部内、要するに、文化政策課内のやりとりであれば多分、「実施内容」と「課題と今後の対応」等に関しては、割と明確に出てきているよう

な気がするのですが、ほかの部局です。例えば、福祉部とかあるいは観光・国際交流部等とのやりとりの中で、どこまで掘り下げていったのかなというところがなかなか見えない。いわゆるお役所的な、縦割りの部分が見え隠れしている。私だけなのかもしれませんが。例えば、②の市民活動の中で、もし仮に子どもや高齢者、障がい者などという文言が出てくるのであれば、福祉部、あるいは教育委員会との連動性をもっと密にしながら、やはり取り組んでいかないと、何というか、思いがあっても実は法的な主題がこうですよ。あるいは、教育委員会ではこういう取組みがなされていますというような、ある種、それぞれの部局の中での目指すところが、ベクトルが違っていると、ボタンの掛け違いみたいなものがあるのかなというふうに。ここの部分で実は、うちの大学のほかの領域の先生とこの話をしたら、いや、これは教育委員会のこのセクトだよねみたいな話になったりしました。ということはやはりどうしても限界があるというか、最終的にどう開かれて、もちろん文化というのは誰もが自由に交流できる領域だと思うし、であるのであれば、モデル事業としての位置づけもどう開かれて、だれもがそこに出入りできるようなステージを作らなきゃいけないという観点からすると、そこが少し、まだここの領域、文化は、いわゆる新潟市では文化政策課が担っています。そこの一提言になると少々弱いような気がします。

一年間でこの資料をまとめて、その成果として課題としていくつか提言されている部分に関しては、評価になるかなと思うのですが、今後の検討課題としたら、やはりほかの領域とどういうふうにつながって、あるいはそれと整合性を持たせながら形にしていくかというのが問われるような気がしました。

例えば、来年、国民文化祭は新潟県がハンドリングされていると聞いています。であるのであれば、やはり県との連携性をどう保っていくのか、あるいはそれを通してどのような新潟市を描くのかということも、一つ目標値になるような気がしました。

総論的でまとまりがない部分なのですが、ざっと勉強して今日の答えとして用意してきたところです。

(太下委員長)

今の丹治委員のご意見で、資料4でモデル事業の部分を見ますと、ほかの部署が所管のものも入っていますよね。多分、成果指標をきちんと管理していこうとすると、PDCAみたいな形で回していく必要が出てきて、そうした場合、自分の部署だったらいいのですけれども、他部署が入ってどのように管理というか、回していく感じなのですかね。多分、問題意識的には丹治さんと一緒だと思うのですけれども。

(事務局)

このビジョンを推進していく上の体制作りとして、まず縦割りを解消して、文化で横串を刺していこうということで、関連する部局を全部集めて、市長をトップとする庁内の組織をまず立ち上げましたと。それから、創造都市政

策推進していくうえで、アーツカウンシル新潟というアームズ・レングスの立場にある外部の機関を設け、それら行政とアーツカウンシルが事業を推進していくかといったところを外からの視点で見ていただくために、皆様方の推進委員会というものを立ち上げて管理していこうという、まず体制を作りましたということなのですけれども、他の部局との連動性ということについては、まだ志し半ばの状態ではありますが、このビジョンの評価、指標、モデル事業を検討していくうえでは、関係部局から集まっていたいて、ワーキンググループで作業を進めてきたというところです。今後のPDCAを含めたモデル事業の進捗管理という部分については、アーツカウンシル新潟から積極的にヒヤリング等も通じて、施策の方向性についてもアドバイスをいただきながら、よりよいものにしていくというように、今、考えているところです。

あと丹治先生のほうから、冒頭、「分け隔てなく」という言葉を入れたほうがいいですよというアドバイスを頂きまして、私も全くその通りだなと感じたところなんですけれども、この目標に掲げてある1-(1)だとか、1-(2)というのが、参考資料2のビジョンの見開きのところに書いてある文章がそのまま入っていて、今の時点では、ビジョンの文章自体は、修正まではできないのですけれども、今後の次期ビジョンの見直しの際には、ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

(太下委員長)

私からも意見を申し上げますと、資料4ですよね。成果指標とモデル事業(案)という資料なのですけれども、先ほどご説明のあった、新潟市の文化創造交流都市ビジョンが出発点になるわけですけれども、なかなかすぐには目標の管理がしにくいような記述になっていますということで、資料3のような、まずは成果指標案をカテゴリー別にちゃんとしましょうという検討プロセスを挟んで、この資料4を作っていच्छやると。これ自体はいいかと思うのですけれども、ただ、そのようにして積み上げてしまうと、若干逆に言うと、この資料3のカテゴリーとか、視点に引きずられてしまうような部分が出てきているなという気もしていて、例えば、具体的にいうと、資料4の④のブランディングと⑤の交流人口ですかね。言葉としては、分かれる感じで整理もできるのですけれども、もちろんそれにひもづく指標も違うものとして整理できるのですけれども、実際にそれにモデル事業をぶら下げてみようとする、あまり美しくないというか、例えば、ブランディングに今、ぶら下がっている「米と酒を中心としたプロモーション事業」とか、「食文化創造都市推進プロジェクト」というのは、もはや食文化というのはブランドとして確立されていると思いますので、むしろブランディングというよりは、交流人口にダイレクトに効く事業ではないかとか。その観点で見ると、目標に挙がっています3-(1)の「本市の拠点性や文化事業を活かしたMICEの誘致を推進します」も、何となくブランディングというよりは交流人口のほうにぶら下がっているほうが自然ではないかとか、同様に指標項目で挙

がっているコンベンション等の開催件数も、交流人口がダイレクトに結びつかれるような感じはすると。そのように見ていくと、別にどちらをやってもいいのです。④のブランディングと⑤の交流人口は、検討のプロセスでは別の視点としてあってもいいのだけれども、いざ実際の事業をぶら下げて進捗を見ていくという観点からすると一緒でもいいのではないかというようにも思うわけです。逆にこの成果指標カテゴリー視点ありきで考えてしまうと、逆にまた窮屈なことになるような気もしました。一番大きな話としてはそういうことで、むしろ資料の作り方としては、真ん中に目標として掲げられているビジョンのいくつかの柱です。記述はそのままに、いわゆる視点別に名寄せをしてみましようということでも並べ替えて、その視点は何という形できて、それに基づく指標項目はこうで、それにひも付くモデル事業はこうという、目標が一番左に来る感じのほうが、最終的には落ち着きがいいのかなど。経過のプロセスはいいのですよ。指標を考えてみましたというところから入っていてもいいのだけれども、最後にまとめる資料としては、目標が一番左に来るほうが、むしろいいのではないかとも思いました。

例えば、同様に今、カテゴリーでいうと②の市民活動の中に目標として3-(2)の「文化芸術の持つ創造性を活用し、市民の文化芸術活動を発展させ、地域の課題解決に取り組む人材を育成します。」とあって、何となくこの文章だけつまみ食いしてみると、これは確かに市民の話だなというように見えがちですけれども、実はもともとの基本方針の3の(2)の中で見てみると、あくまでも文化芸術というものが社会の課題解決に使われるのかという文脈で語っているのです。だから、そういった意味で言うと、市民活動というよりは、もう少し違うカテゴリー、多様性や寛容性などに実は近い、近く読み取るべきセンテンスであったりもする。

繰り返しになりますけれども、カテゴリーや視点ありきでこの目標を名寄せしてしまうと、逆にミスリードもしてしまうのではないかという感じもしました。これはすごく大きな話としてあって。

さかのぼって、資料3という目標、指標の話を見ますと、先ほど、ご質問でこの数字がどう出れば成果なのかというご質問もあって、これはけっこう悩ましいですね。理想的に言うと、この基準値と言われている、現在、把握されている数値が上がっていくというか、基本的には上がっていくということが、多分、望ましいという判断が前提にあるのだと思うのですけれども、どこまでになればいいのかと、なかなか設定しづらいですね。多分、何となく多くの数値に関して、どこかで頭打ちになるのだろうなという、何となくそういう想定はつきましますけれども、それはどの辺が妥当なのかということが、なかなか設定しづらいかもしれない。そう考えると、ゴールがあるような目標ではなくて、この数字が変化していくことをきちんと把握していくという成果進捗みたいな、そのような性質の数字なのかという気がします。例えば、鑑賞行動の二つ目のところにあります、世帯当たりの文化支出みたいな話で、これが10万円になればいいのかという、そんなの無理だし、そ

れが5万円なのかという、何とも言いようもないですよ。そう考えると、なかなか目標は設定しづらいのだろうなという気はします。

あとは非常に細かい話になってしまいますけれども、その上にある文化芸術活動に初めて参加する人の割合というものも、一つの参考値としては、多分ありなのだろうけれども、なかなか性質的にとらえ方が難しく、多分、この数字が今後、下がっていくということは、市民がいろいろな人たちが、市内でいろいろな文化活動に参加しているので、初めてという人が減っているのだねという見方もできるかもしれないけれども、さすがにこれがゼロになるということはないですよ、全員が動員されるということもないし。一方で、これが何となく初動値としては上がったほうがいいかもしれないですよ。普段来ていない人が来るという人が増えたほうが、もしかしたら文化の普及につながっているかもしれないという解釈もできなくもない。そうすると、短期的にはこれが20パーセント、25パーセントになったほうが、初めての人がいっぱい来てくれてよかったねという評価かもしれないみたいなことも考えると、この数字の設定はなかなか難しいのかなとか、そういうテクニカルな面での難しさはいろいろあって、この下の世帯当たりの支出額というものも、今後、新潟でも核家族化がさらに進行していくということを考えると世帯額がどんどん減っていくのではないのかか思ったりもします。実は同様に人口とか世帯に関する指標というのが、もしかしたら直近では増えていくかもしれないけれども、何らかの施策を打つことによって、総人口が減っていく、シュリンクしていくということを前提に考えると、軒並み維持するのが精一杯という数値にもなってしまうのかなとか。例えば、下のほうにあります経済・雇用の創造産業関連企業の雇用者数、多分、雇用者数全体は中期的に見ると減ってきていますよね、明らかに。例えば、人数ではなくて、割合にするとか、いろいろテクニカルには考えていけないといけなようなことがあるかなとも思いました。

(迫委員)

今の太下さんのに私もプラスアルファでというか、基準値がより理解しやすくするために、～市、上のほうのよいとされているところのパーセンテージだったり、一番低いところでこうだとかということが分かると、新潟がいいのか、悪いのかというか、ランキングが84位と言われても、85位中の84位なのか、2,000位中の84位なのか分からないので、何分のとかがつけられるところはつけてもらえると、ここは伸ばさなくてもいいけれども落ちないようにしたいねというところとかが見やすくなるねとか、先ほどの⑥経済の相談件数のうち、創造産業の割合と書いてあるけれども、全体がどれくらいあって、どれくらいなのかとか見えると、検討しやすいのかなという気がしました。興味があるというか、気になるなとも思いました。

(太下委員長)

ありがとうございます。テクニカルにいろいろと検討していただいたほうがいいかと思います。

とりあえず、この資料4でほかに何かご意見ございますか。ほかの方のご意見などを聞かれて、こういうこともあるのではないかということがあれば、頂ければと思います。よろしいですか。事務局もよろしいですか。今日のご意見を踏まえて、また検討をしていただくということで。また後でご意見があったら出していただいてもけっこうかと思しますので、一応、次第「4 意見交換」の「(1) の新潟市文化創造交流都市ビジョンの成果検証」については、一旦区切らせていただいて、(2) の「アーツカウンシル新潟の成果検証について」を進めたいと思います。また、こちらについて資料のご説明をお願いいたします。

(2) アーツカウンシル新潟の成果検証について

(資料6、資料7)

(事務局)

それでは、「(2) アーツカウンシル新潟の活動状況と評価検証について」説明をさせていただきます。資料6をご覧ください。

まず、1の設立目的につきましては記載のとおりでございます。次に、2の人員体制でございますけれども、今年度も7人体制で運営をしてきました。しかし、プログラムオフィサー1名が12月に退職しまして、現在では6人体制となっております。ただ、後任につきましてはすでに選考を終えておまして、4月より着任の予定となっております、来年度につきましても、7人体制を予定しております。

次に、3の予算状況についてです。平成29年度の決算につきましては、約4,600万円、うち1,560万円の補助を文化庁から頂いております。平成30年度予算につきましては、全体で約4,850万円、うち文化庁からの補助金は2,000万円の予定でございます。この補助金は平成30年度までで終了となっておりますので、平成31年度以降の自主財源の確保につきましては、文化庁からの事業受託や企業からの寄附制度について現在、進めているところでございます。平成31年度予算については、総額で4,850万円で計画しております。

次に、右側のページでございますが、4活動実績についてです。主なものにつきまして説明いたしますと、アーツカウンシル新潟の四つの機能、市民の文化芸術活動の支援、調査・研究、情報発信、企画・立案の四つに基づきまして、表にまとめてございます。①の市民の文化芸術活動の支援につきましては、相談、助成、こういったものが中心になりますが、相談の対応が97件でございました。平成29年度と比較しまして100件ほど減っているのですけれども、これは今年度、新潟市が開催いたしました「水と土の芸術祭2018」で実施されました82の市民プロジェクトがあるのですけれども、その事前相談が平成29年度中にあったという特殊事情が主な要因となっております。助成といたしましては、採択ベースですけれども、活動助成が11件で199万円、基盤助成が4件で316万円となっております。また、beyond2020の認証事務を市からアーツカウンシルに委託しておりますけれども、今年度は2

月末時点で82件の認証をしております。

次の②調査・研究についてです。二つ目の〇市の文化施策の向上に資する調査・研究、人材育成、啓蒙等ということで、市の職員に対して、文化施設におけるアクセシビリティ勉強会や市民協働についての研修会を開催いたしました。また、教育委員会と連携いたしまして、地元神楽等を取り入れながら、伝統芸能を学校教育に取り入れていくための合同研究会を実施いたしました。

③の情報発信につきましては、二つ目の〇文化情報スペースの運営といたしまして、「語りの場」の開催というものがございます。これは広く市民を対象として、様々なジャンルの方をお招きし、アーツカウンシル新潟の事務所内スペースなどで意識の醸成や活動のヒントになる話題の提供、意見交換ができるというような機会を設定しております。

④の企画・立案につきましては、本市が取り組んでいる文化事業の企画運営に対するアドバイス等を頂いているほか、現在、Noismの事業ですとか、水と土の芸術祭の市民プロジェクトについて評価を頂いているところがございます。また、二つ目の〇組織の自律化に向けた取組では、文化庁の補助金がなくなった後の組織の持続の在り方ということで、イオンのご当地WAONカードという寄附制度を活用したほか、文化庁関連ですとか、県から積極的に事業を受託するというようにしております。

次に、このアーツカウンシル新潟の成果の検証方法についてご説明します。資料7をご覧ください。昨年度の本委員会で、私どもの案としては、ビジョンの評価と連動しながらアーツカウンシルの評価をしていきたいという考えから、ビジョンの成果検証と同レベルでアーツカウンシルの評価を設定いたしましたところ、アーツカウンシル新潟の評価については、市の政策との連動性ですとか、各文化団体との関係性などを評価するという必要があるのではないかというご意見をいただきました。資料7は、そのご意見を踏まえまして、修正をしたものでございます。

まず、表頭の一番左の列、アーツカウンシル新潟の目標につきましては、外部に目を向けた目標1と、アーツカウンシル内部に向けた組織体制における目標2という裏面になりますけれども、この二つに分けてございます。さらに外部に対する目標の実施方法は左から2列目になりますけれども、これを市の文化行政部署と市の文化行政以外の部署、市内文化芸術団体、その他の主体という四つの対象別に分けて整理をいたしました。

裏面になりますが、内部組織に関する実施方法については、運営基盤の確立、財政基盤の確立、そしてプレゼンスの向上という三つに分類しております。左から3列目の直接の結果というところにつきましては、先ほど、説明いたしましたが、アーツカウンシル新潟の平成30年度の活動状況を改めて実施方法別に整理をしたものでございます。もう一度、表の面に戻っていただきまして、左から4列目から6列目、真ん中ほどをご覧くださいと思います。今ほど説明いたしました項目ごとに、あるべき事業の成果を記載して

ございます。4列目が短期ということで、おおむね1から3年ほど、5列目が中期ということで3から5年程度、そして6列目は長期ということで5年から10年くらいを目安に設定しております。まず外部に対する事業の成果につきましては、アーツカウンシル新潟の外部との関わり方の変化ですとか、政策に対する連動性を主な視点といたしまして、最終的な長期の事業の成果をアーツカウンシルの必要性の認知や良好な関係性といったものに設定をいたしました。例えば、一番上の段をご覧いただきたいと思うのですが、2列目の実施方法のところですが、新潟市文化行政への支援、連携というものにつきましては、4列目にあります短期の事業成果を「新潟市の文化関連2課での周知が全員に行きわたっており、気軽に相談することができる」といたしまして、それが隣に行きますと中期ということなのですけれども、「新潟市の文化政策の立案から事業実施までの全てのプロセスに寄与している」、「アーツカウンシルによる評価が実施され、反映されている」というように変化いたしました。最終的には長期の成果といたしましては、「新潟市の文化行政において、重要性が認識され、適切な関係性が築かれている」というようにしております。

また、裏面の内部に対する事業の成果につきましては、ネットワーク拠点の形成ですとか、人材育成体制の確立、自主財源の確保といったものを長期の成果として設定をしております。

最後に、一番右の列にあります成果指標といたしまして、事業の成果の変化、連動性といったものを測るものといたしまして、できるだけ定量的な指標も含めて、設定をしたところがございます。委員の皆様には事業の成果及び成果指標等につきましてご意見をいただきたいというお願いと、これまでのアーツカウンシルの活動等につきまして、今後、期待することなども含めまして、ご意見をいただければと思っております。以上で説明を終わります。

(太下委員長)

高野課長、ご説明ありがとうございました。

今の資料6、7に関して、何かご質問等ございますでしょうか。よろしいですか。そうしましたら、先ほどと同じ順番で一通りご意見をお伺いしたいと思っておりますけれども、今、お話しがあったとおり、成果検証の内容や今後のアーツカウンシル新潟への期待とか、そういったことについて、ご意見を頂ければと思います。

(村山委員)

ご説明ありがとうございました。資料7をご説明いただきながら拝見しております。資料の中央部です。事業の成果、短期、中期、長期というように段階的な記載があるのですけれども、こちらについて全体的な感想なのですけれども、何かしら明確なここをもって達成ではないのですけれども、そういったものが明確になっているとより分かりやすいのかなと思ったところと、寄与しているということで、特に事業の成果の3から5年というところに使われている表現かと思うのですが、例えば、表面の一番上段、ア

ーツカウンスル新潟の目標の中での新潟市文化行政への支援、連携の中期のところの箇条書きの一つ目でしょうか。「全てのプロセスに寄与している。」、この寄与しているは、何をもってそうなのかという部分が具体的にっていると非常に分かりやすかったのかなというのがまず一つの感想でした。

また、思いつきましたら発言させてください。取り急ぎ以上です。

(太下委員長)

ちなみに、たまたま先ほどビジョン全体の成果検証の議論をしたわけですが、こちらはアーツカウンスル新潟の成果検証ですね。今、確かに、村山委員からご指摘あったとおり、定性的な表現になっていますけれども、これは今後、何か達成の目安的なものを事務局で検討したりするのでしょうか。

(事務局)

おっしゃるとおり、もっと具体的だと分かりやすいのだろうなとも思います。ここはもう少しこれから検討して行って、より分かりやすいものになればいいなと思っています。ぜひ、ご意見、いろいろといただきたいと思えますので、よろしくお願いします。

(太下委員長)

分かりました。

では、山田委員、お願いします。

(山田委員)

私も、営業会社の民間企業の視点からいくと、やはり何をもってこの成果指標とするのかというのは、少し、いまいちぴんとこないところです。定量とか定性とかいろいろありますけれども、そもそもこれがもっと客観的な指標にならなければいけないのではないかと。主観的な要素が非常に高いのかなというのがあります。我々の人事評価においても、営業成績と行動評価という二つの軸でやるわけなのですが、これは行動評価という部分に入ってしまうのかなと。ただ、その中でも、民間の場合、行動評価でも、5段階の中での達成度とかそういったことを求められている中で、この成果指標だと、何をもって判断するのか、とても客観的要素に欠けているところが見受けられるのではないかと思います。

(太下委員長)

民間企業で言ういわゆる業績評価に対応する、こういう公共の事業の評価というのは、取組みが始まったばかりというか、試行錯誤している段階ですので、やりながら考えていくところも、きっと、多々出てくるのでしょうか。

もし、何かコメントがあればお願いします。

(事務局)

確かに、私どもが取り組んでいる文化創造という部分からすると、文化創造というくらいですので、過去に例のないものを評価していくのだという中で、進めて行くに当たり評価という、ここで爆弾発言的なことをして申し訳ないのですが、そもそもアーツカウンスル新潟をこういう形で評価し

ていくことが、文化創造についてこういう形で評価するというのが、かえって手かせ、足かせになっていくのではないかと。やはり、動きながら修正していくとか、先を考えながら新しいものを生み出していくところもあると思うので、ここは本当に、非常に。かといって、市民の方々に分かりやすく説明しなければならないところもありますので、本当にここは難しいところだと思いますので、より一層議論していただければありがたいと思います。

(太下委員長)

それでは、木村委員、お願いします。

(木村委員)

私も、今日、初めて参加させていただいて、皆さんがこの新潟についてすごく真剣に取り組んでいるなというのを、第一の感想として述べさせていただきます。

私もよく分からないのですけれども、具体的に、成果指標の上から2段目なのですけれども、文化関係課以外の部署の会議への出席数、シンポジウムなどへの登壇数の増加となっています。私の認識不足かもしれませんが、シンポジウムにどれくらいの回数登壇されたのかというのも、興味を持っております。どのようなシンポジウムへ参加して、去年に比べてどれくらい増加したのかということ。

あとは、関連分野への参加による横断的なネットワークの構築となっています。本当にネットワークの時代なのですけれども、これが全般的に、一般の方々のネットワークとも関係が取れているのかどうか、私は分からなかったもので、その辺を聞いてみたいと思います。

あとは、直接の結果の下の方ですけれども、「国民文化祭での新潟県への支援（新潟・阿賀、佐渡エリアコア事業委託等）」、「企業その他団体との連携（6件）」となっているのですけれども、この6件がどこの団体というのは、具体的には出せないのでしょうか。それも知りたいと思います。

(太下委員長)

団体の固有名詞などは出せないかもしれませんが。

(アーツカウンシル新潟)

お答えします。まず、最初の会議やシンポジウム等への登壇数ということですが、アーツカウンシル新潟が本格的にスタートして、今年度が2年目になるわけです。先ほどのビジョンの検討で申し上げますと、例えば、福祉関係の事業との連携であるとか、それから市民協働課との連携であるとか、そういった、新潟市役所庁内でのほかの関連部署との連携、それから会議などへの出席は、まだまだ不足していますけれども、確実に増やしているところです。文化芸術の基本法、国の法律でも定められているように、文化芸術の振興だけではなく、経済であるとか観光、それから教育、福祉といった分野と連携して広げていくということがそもそも掲げられている中で、今、ご指摘があったように、市役所の中だけではなく、外の皆さんとの連携も今後増やしていきたいというところがあります。ただ、先ほどのビジョンの話でも

ありましたが、商工会議所や新潟IPC財団とかに行ってはいるのですけれども、正直、なかなか殻が固いなという感じを、実は、実感として持っています。逆に、木村委員のお力もお借りできればと思っています。

それと、ネットワークの関係ですが、今、文化団体も含めて、いろいろな団体との拡大を図っているところですが、とにかく新潟市は広いので、各区にまで持っていくのをどうするかというのが課題になっています。どうしても中央区中心、芸術文化団体の活動自体が盛んだということも言えるかもしれませんが、中央区や近隣になってしまっているところは否めないと思っていますので、今後、いろいろな市域全体でのネットワーク化を図っていただければと思っています。

企業との連携は、もちろん、相談にお越しいただいたところもそうですし、この後、迫委員からお話いただくかもしれませんが、デザイナーの皆さんであるとか、具体的には言えませんが、製造業の皆さんであるとか、商工会の皆さんとの連携は少しずつ図っているところではあります。

(太下委員長)

続いて、迫委員、お願いします。

(迫委員)

資料7と資料6を並べてみると分かりやすくなったなど、先ほど、分からない中で見ていたのですけれども、活動実績を見るとけっこういろいろやられているので、進んでいる。成果指標にその数字みたいなものが入っていないのでぼやっとして見えるのですけれども、こちらを見れば入っているのです、そういう目標を数値で出すといいのではないかと。調査件数に及ぼす団体や参加者の人数が出てくると思うので、水と土の芸術祭方式ではないけれども、かかわった人でカウントするみたいなことをここでもやれば、何か効果が見えるのではないかという気がします。皮肉みたいで申し訳ないです。

それとは別に、私も活用させていただいているのですけれども、相談及び調整という非常に意義があることをされていて、専門的な相談ができるところとか調整できる場所のありなしで、文化活動がけっこう変わってくるのではないかと私は思っているのです、それを何か一般の方にうまく説明できればいいのだけれども。この相談・調整という言葉を使わないでほかの言い方をするといいのではないかというか、私は答えを持っていないのですけれども、相談・調整に非常に意義があると思っています。私たちも専門の方とかいろいろな経験をしている方に相談すると、こういうやり方があるんだとか、いろいろ提案されるものに対して、そうだなとか、違うなとか、では、自分たちはどういうものを探そうかということができているので、意義深いのですけれども、それを活用できる、使い手も少ないかもしれないですが、そのマッチングがうまくできればと思っています。

私は、個人的にですけれども、デザインを、より行政だったり新潟というところが活用できればいいなと思っていますのです。勉強会などをやっていく

中で、使い方が分からないような方が非常に多くて、自分たちが分かっていないなという意識をされている方も多いことが分かってきたのです。デザイナーが必要とされているところを探すというよりも、逆に、必要としたいのだけれどもどうしたらいいのかという方が多いので、来年度、その悩み相談をやっていこうかなと思っています。商工会議所の担当の方にお話ししたところ、それをやりたいというか、直にデザイナーというよりも、デザインの使い方だったりということを言われたので、逆に、そのアート版もできるのかなというか、私はできないですけれども、アートの使い方の説明だったり、水と土の芸術祭などにとられることなくこういう事例がたくさん出ていますとか、大きい規模、小さい規模の事例の紹介と、できる制度の紹介とかという、結び付ける機能がもう少しあるといいのかなと思います。

あと、WAONカードが意外と売れていないなと。2万枚売らないといけないけれども1,300枚なので、ぜひ、皆さんに買ってもらうというか。しかし、イオン株式会社が入っているので難しいなとは思いますが、自立してほしいなと思うのですけれども、今後、どういうやり方があるのか。自立しないと、この5年、10年というのではないと思うので、自立を探してほしいと思います。

(太下委員長)

大変ハードルは高いでしょうけれども、経済界との結びつきを考えて、できれば新潟の地域版のメセナ協議会みたいなものも作っていただけるといいかなと思っています。

丹治委員、お願いします。

(丹治委員)

私からは、地域を変える力というのは何かというと、よく言われるのが、よそ者、ばか者、若者と、3拍子そろった方々がこのアーツカウンシル新潟にいらっしゃるので、そういったことを考えると、今から10年前レベルで考えると、本当に揺さぶりがいろいろなところで起きているなと感じます。そう考えると、本当に意味もあるし、アーツカウンシル新潟そのものが、今後、新潟の土壤においていろいろな場面で活躍していく、あるいは活躍するだろうと思っております。

ただ、アーツカウンシル新潟って何ということをつまに聞くのです。新潟市内ならまだいいのですけれども、県レベルの文化関係者から、新潟にアーツカウンシルってあるけれども、あれはどういうものなのという、クエスチョンマークを投げかけられたりして、まだまだこういう領域、例えば、アーティストであったりデザイナーであったり、あるいは、それをプロデュースする領域はあるけれども、後方支援的な、アーツカウンシル的なものはなかなかまだ認知がされづらいのだろうなど。それを今後、広報的なことも含めて広げていく必要性もあるような気がします。

それを基に資料7を見せてもらうと、多分、これなどは議会对策とか、お役所的な視点の羅列に私は感じています。むしろ、ところどころで起きてい

る絵面などがあつたほうが、例えば、シンポジウムあるいはいくつかの出先でのやり取り、勉強会等も含めてビジュアル的に見ると、あ、こんなことでこういうつながりを持っているのだと。それが市民に伝わったほうが、むしろ効果的なのかなと。こういうものと連動させながら絵面があると、アーツカウンシル新潟の存在意義みたいなものもより深化するような気がしました。

あとは、やはりここ2、3年単位の問題ではなく、10年、20年、継続的に続けてほしいなど。少なくとも20年、30年くらいは本当に続けてほしいと心から思っているので、その辺は新潟市としても盤石の体制でバックアップ体制が取れると、文化としての、新潟市が全国に誇れる都市になるような気がします。

(太下委員長)

では、私からも意見を言わせていただきます。

資料7で、平成30年度アーツカウンシル新潟 成果検証についてというタイトルになっていまして、先ほど、なかなか成果検証というのはどうなの的な話もあつたのですけれども、成果検証というのは、そもそもしなければいけないのでしたか。先ほどのビジョンは成果検証を行政としてしなければいけないのだろうと、何となく思うのですけれども。

(アーツカウンシル新潟)

P D C Aを回すという話が、そもそも文化庁の補助金の設定ではあるのです。

(太下委員長)

成果検証をやつたほうがいいのだろうとは思いつつ、多分、資料のタイトルは成果検証についてでいいのですけれども、資料7は、実体的には、今後のアーツカウンシル新潟の活動のヒントを探るペーパーくらいの感じでいいのかなと思うわけです。ここに平成30年度のアウトプットとかアクティビティとか書いていってもらって、一方で、今後、こういうことを目指していくのだということが定性的に書かれているので、これを見ると、だったらこういうこともやってみたら、みたいなものが、多分、何となく見えてくると思うのです。それを平成31年度のアーツカウンシル新潟の実行計画の中に反映していく、または平成31年度にすぐに反映できないとしても平成32年度とか、近々で反映していくみたいなことに活用するためのペーパーとして使われればいいのかなと。あまりぎりぎり、何かは何件になつたからどうか、そういう、いわゆる成果検証ということではないペーパーにこれが活用されるといいのかなと思いました。

何を言っているのだということかもしれませんが、例えば、これをぱっと見たときに、資料7の1、新潟の多様な主体との協働による文化創造交流都市の実現と。実は、アクティビティの次の列は、割と働きかける主体別に分かれているような感じになっています。何となく満遍なく出ているような感じもするので、一方、よく見ると、例えば、新潟市議会

への働きかけはしなくていいのか。一番下のその他の主体に、県議会は入っているのです。県議会に働きかけているのに市議会には行っていないとか。行っているのかもしれないけれども。これはいろいろな意見があるかもしれないですけれども、私は、アーツカウンシル新潟はむしろ立法府というか議会とも緊密に連絡を取るといえるか、より踏み込んで言えば、議員の先生方にも文化の価値とか意義をもっとアピールしていくべきだと考えているのです。すぐに頭が柔らかくなるとは思いませんけれども。しかし、やっつけていくべきだと思っているので、議会へのアプローチというのはあったほうがいいと思います。

あとは、例えば、下から2行目の市内の文化芸術団体等への支援、連携。またはその他の主体になるのでしょうか、例えば、この辺りで、新潟市文化・スポーツコミッションとかDMOとか、先ほどのビジョンのほうではけっこう観光とか交流とかブランディングとか、かなり強調されていた感じもするわけですが、やはり、アーツカウンシル新潟としてもそれに何かかわるような接点があったほうがいいのかなとか、そのようなこともこのペーパーからは見えてくる感じがするのです。そういう、次のアーツカウンシル新潟の活動のための下調べみたいな感じで、成果検証についてと言いつつ、実は永遠に検証しないみたいな。そんなペーパーになればいいかなと思って、今日はお聞きしておりました。

ほかに、何かご意見はありますか。

ちなみに、せっかくオブザーバーでご参加いただいていますので、何か、意見という重たくなってしまいますので、感想でもいいので、お願いします。

(オブザーバー)

アーツカウンシル新潟には、私たちも、ここにも出ていますけれども、国民文化祭の二つのエリアということで、いろいろなアイデアを出していただいて、活用させていただいています。

私が気になったというか、資料6で、今年度までは文化庁から補助金があるということで、来年度からは、たしか企業からの寄附というお話があったのですけれども、今後、こういうものがうまく持続可能になっていただければいいのだろうなとは思っているのですけれども、その辺、寄附みたいなものはうまくいきそうな感じなのではないでしょうか。その辺の状況をお聞きしたいと思います。

(アーツカウンシル新潟)

正直、企業からの寄附は割と大変で、特に新潟市は新潟県全体を含めて、ほかの地域に比べても大変だと思います。まずは、お仕事としてこういう役に立つということを示して行って、コンサル業と広告代理店業の間くらいの話を、芸術文化を使ってやるみたいなのところの中で、接点を作っていくというのが来年度の課題かなとは思っています。

(太下委員長)

新潟県も同じような戦略ですか。役に立つところを見せながら、いずれは、みたいな。

それはさておき、一応、意見交換の議事に上がった二つの項目は一通り皆さんからご意見をいただきました。(1)、(2)を通じて何か、または他の項目等で、この場でご意見を言うておきたいということがあればお願いします。

よろしいでしょうか。それでは、5番の「その他」ということで、事務局から何かありましたらお願いします。

5 その他

(司 会)

ありがとうございました。

5番の「その他」ということで、委員の皆様から事務連絡等、何かありますか。

ないようですので、事務局の人事異動についてご報告させていただきます。4月1日より、文化創造推進課の高野課長が資産税課へ異動となります。文化創造推進課の丸山課長補佐が、新しく課長として着任いたします。部長と文化政策課長は変わらずとなっています。

最後に、文化スポーツ部長の中野よりごあいさつさせていただきます。

(文化スポーツ部長)

今日は長時間、ご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

文化創造交流都市ビジョンは2年前に作成したのですが、私が課長時代に作成しまして、このビジョンを作ったときにPDCAサイクルがないということで、それを確立するのも目的の一つだったので、そのために、これをどう評価するのかが作ったときからの一番の課題で、それが2年間、こうやって議論してきたのですが、今日もたくさんご意見をいただいたように、まだ明確な答えが見付かっていないというのが正直なところです。今日いただいた意見を参考に、また我々のほうでも再検討したいと思っていますし、我々ももっと勉強が必要だなということ、今日は感じさせていただきました。

それから、アーツカウンシル新潟については、先ほど、柴田さんからもご指摘がありましたけれども、文化庁からの2,000万円の補助金が今年度で終了するというので、来年度はいただけないのですが、新潟市としては、アーツカウンシル新潟は必要な組織だという認識のもとで、予算を何とか確保しまして、これからも活動していきます。もちろん、自主財源の確保にはできるだけ努めていくということなのですが、本当に新潟市はいろいろ言われていますように、行財政改革ということで、かなり厳しい予算状況になっているということもあって、正直、文化行政については前より厳しい状況になってきているのかなというのはあるのですが、アーツカウンシル新潟もありますし、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて文化プログラムを推進するのだということについては変わっておりませんので、

また引き続き皆様からご意見、ご協力をいただきながら、せつかくここまでやってきた文化創造都市の取組みですので、全国的にも新潟市は文化創造都市としていろいろなところから認めていただいているので、それを後退させることがないように取り組んでいきたいと思ひます。

今、紹介がありましたように、私はもう1年、部長を務めさせていただきますので、皆様に引き続きのご協力をお願いいたしまして、今日のお礼のあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。

6 閉 会

(司 会)

以上をもちまして、平成30年度第1回新潟市文化創造推進委員会を閉会いたします。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。